

2023年12月24日 久宝教会 クリスマス礼拝メッセージ

「夜通し働くあなたへ」

水谷憲牧師

聖書 ルカによる福音書 2章 1-20節

例年12月に入ると、町にはクリスマスを迎える雰囲気が高まります。デパートでも商店街でも、クリスマスの飾りつけがきれいにされて、「メリークリスマス!」の文字が踊ります。一般のご家庭でも、自宅を美しくライトアップし、植木をクリスマスツリーとして飾り付けたりしているところもあって、なかには電飾をこれでもかとはばかりに飾りつけて、まるでちょっとした遊園地のようにもあったり、逆になんだかいかげわしい雰囲気の建物になってしまったり、「ああ、過ぎたるは及ばざるが如しとはこのことか」と改めて学ばせていただいたりする今日この頃、この季節であります。

中世ヨーロッパにおけるクリスマスも相当なものだったようで、豪華な飾り付けに贅沢なごちそう、その中で賭け事をして楽しんだり仮装舞踏会が開催されたり、どんちゃん騒ぎで乱痴気騒ぎのクリスマスだったようです。そのため、ピューリタンと呼ばれた信仰に真面目な人々はこれを激しく批判し、「異教徒はこれを見て、イエスは享楽主義者、大酒飲み、悪魔の友人と思うだろう」と嘆いたといえます。スコットランドでは議会でクリスマスの完全禁止を決定したりしたこともあったようです。教会は、教会がですよ、上からの圧力などあったのでしょうが、「クリスマスをするな」とのべ伝えるようになり、それに反対してクリスマスを祝ったために罰金を科されたり投獄された牧師もいたといえます。しかしその後、クリスマス禁止法案に反対の暴動が各地で起こったために、クリスマスは再び認められるようになったのだそうです。でも最近でも、中華人民共和国における一部の地域において「わが国の伝統文化に打撃を与えている」との理由でクリスマスの行事を禁止する通知が出された、とのことで、プレゼント交換やクリスマスメッセージをメールで交換することもだめなんだそうです。それ以来どうなっているのかまでは分かりませんが、このように昔も今でも、いろいろと物議を醸すクリスマスですけれども、過剰などんちゃん騒ぎはともかく、やはりクリスマスは何となく清らかなイメージがあるし、みんななぜか優しくあったかい気持ちになれる日、誰かと一緒に過ごしたい日、人恋しくなる日、みんなでわいわいと楽しく過ごしたくなる不思議な日であるように思います。真夏の蒸し暑い夜なんかに行われるのとは違って、冬の張りつめた

冷たい空気が、なおさらそう感じさせるのかもかもしれません。クリスマスは今や宗教の枠を越えて、世界中の人がいつもよりちょっと優しくなれる日といえるのではないのでしょうか。クリスマスという日は、何でみんなそんな気持ちになるんでしょう。それはきっと、イエス・キリストが誕生したということがやっぱり関係しているんですねきっと。

クリスマスに生まれたキリストは後の生涯において、いわれのない侮辱を受けている人、誤解されのけものにされている人たちに目を留め、そこに寄り添われた方でした。聖書によると、そのキリスト(救い主)が生まれたことを天使によって初めに知らされたのは羊飼いたちでした。この羊飼いという人々は、当時一般に卑しいとされていた人々、軽蔑の対象とされていた人々だったといえます。彼らは「あいつらいつも自由にぶらぶらしていやがって、気楽でええのう」という風にしか見られていなかった人たち、真面目に一生懸命生きているようには見てもらえなかった人たちでした。しかし見るとやるとでは大違い、彼ら羊飼いというのは、羊を導いてえさを与え、水を飲ませ、羊が散り散りにならないよう常に目を配ることが仕事なのですが、しかしその他にも、狼などの外敵から羊を守らないといけない、病気の羊や傷ついた羊がいれば看護をし、妊娠している羊や生まれたばかりの羊がいればその世話もしなければならぬ、中にはちょっと目を離すととんでもないことになるいわゆる「問題児」的な羊もいたでしょう。いつも心を閉じたように一人ぼっちでさまよっているような、気にかかる羊もいたでしょう。いつもやたらと反抗的な羊もいたでしょう。時には羊同士のトラブルの対応もしないといけなかったかもしれません。このように、まさに昼夜問わずあらゆる形での羊の世話に追われていたために、彼らは当時の律法の定めるいわゆる「正しい」生活、食事の前には手を洗ったりして清潔にするとか毎週ちゃんと安息日を守るとかお参りにいくとかできょうもなかったんです。羊は当時の人々にとって、乳や肉、また羊毛、さらに神への献げ物ともなる、大変生活に密着した重要な家畜でした。そんな大事な羊を寝る間も惜しんで、身を粉にしながらかい育て、質の良い肉や美味しい乳、美しい毛皮、傷一つない献げものとしての羊を提供しているにもかかわらず、羊飼いたちは誰からも感謝されるどころか、それが当たり前とされ、むしろ周りから楽な仕事だ、不規則な生活をして神に背いている、しょーもない奴らだなどと侮辱をされていたのです。

そんな羊飼いたちが天使から知らせを受けます。「今日ダビデの町で、あなた方

のために救い主がお生まれになった。この方こそ、主メシアである。」誰にも知られることも感謝されることもなく夜通し羊の群れの番をしていたこの羊飼いたちの姿は、その働きにもかかわらず誰にも気づかれず、感謝もされず、むしろ誤解されていたりすることのある私たちの姿とも重なります。「夜通し働く」とは何も一晩中働くという意味だけではない。多くの人々に気付かれることもなく、当たり前と思われている陰で自分を献げて働いている姿のことでもあります。この羊飼いたちが誰よりも先に受け取ったこの慰めと希望の知らせは、誰にも気付かれず、誰にも感謝されることもないままに自分を犠牲にしている私たちに送られたものでもあるのです。世の中すべての人があなたのことを理解せず、感謝することもなく、なんならあなたの落ち度をあげつらって責め、陰口を叩き、あるいはあなたの存在を無視しようとも、私だけは知っている。あなたがどれほど自分の気持ちを押し殺しながら一生懸命人のために身を削っているかを。私だけは知っている。周りから誤解されていることであなたがどれほど傷つき、悔しい思いをし、涙を飲んでいるかを。私だけは知っている。一生懸命仕事をして、一生懸命家事をこなし子育てをして、一生懸命誰かのお世話をしても、誰かの相談を誠実に受けても、そんなこと全く評価されるどころか、そんなこと当たり前だろと思われる。むしろ足りなかった点ばかりやり玉に挙げられる。自分がいかに多くのものを犠牲にして努力していても、誰もその笑顔の裏にあるしんどさに気づいてくれない。そんなあなたのために、今日救い主がお生まれになったよ！

今日の聖書において、天使たちから「あなた方のために救い主がお生まれになった」と知らせを受けたのは、羊飼いたちでしたが、このクリスマスの出来事に登場する、ヨセフもマリアも、東方の博士たちもみな、人には隠された痛みや悲しみを持っている人々でした。クリスマスに生まれたキリストは、そんな「隠された悲しみ、悔しさを抱えるあなたのことをも神様は見てるよ」ってことを示すために、神様が下さった宝物なのです。クリスマスは、そんな私たちの隠れた痛みや悲しみをわかって下さる救い主、キリストが生まれた日なんです。そしてそんな隠れた痛みや悲しみを抱えながら毎日を送る私たちにこそ、真っ先に天使たちはその喜びの知らせを持ってきてくれているのです。

神様が夜通し働く私たちに、真っ先に知らせてくれた救い主の誕生を、私たちは喜んで受け止め、優しい気持ちでうれしいクリスマスを迎えたいと思います。